

石川高専 だより

National Institute
of Technology (KOSEN),
Ishikawa College

No.110
2026/07



CONTENTS

- | | |
|------------------------------|----------------------------|
| 01 令和8年度入学式 | 16 役職員等名簿／ |
| 03 新入生の声 | 課外活動指導教員名簿 (DATA BOX 2026) |
| 05 1年生合宿研修 | 17 国際交流だより |
| 07 学科・専攻科だより | 18 留学生だより |
| 10 学生相談室だより | 19 退職に寄せて |
| 11 令和7年度卒業証書・修了証書授与式 | 20 新任教員紹介／人事異動 |
| 12 MESSAGES from 卒業生・修了生 | 21 行事予定／こども石川高専 |
| 14 進路状況 | 22 ニュース&トピックス |
| 15 令和7年度資格等試験合格者一覧／令和8年度学生役員 | |

令和8年度 石川工業高等専門学校入学式

令和8年度 入学式

Welcome to KOSEN!
National Institute of Technology,
Ishikawa College

令和8年4月6日、津幡町文化会館「シグナス」において令和8年度入学式を挙行了しました。

式では、富田校長から入学許可宣言が行われ、本科入学生213名を代表して機械工学科の谷内成実さん、専攻科入学生30名を代表して環境建設工学専攻の池田茉結さんが宣誓を行いました。

宣誓者からは、それぞれ「私達は、本校創立の精神にのっとり、学則及び諸規則を守り、学生としての本分をまっとうすることを宣誓いたします。」と決意が述べられました。

入学生達は、緊張と喜びに満ちた表情を見せながら、希望を胸に、新たな一歩を踏み出しました。



校長告辞

今日の佳き日に、令和8年度の石川工業高等専門学校入学式を挙行できますことは、私ども教職員および在校生一同の大きな喜びであり、ご臨席の皆様方に心から御礼申し上げます。

本年度は、第1学年に入学する学生208名、第3学年に編入学する留学生3名、第4学年に編入学する学生2名、さらに専攻科に入学する学生30名、合わせて243名の新生を迎えることとなりました。

新しく入学あるいは進学された皆さん、ご入学、おめでとう。皆さんを心から歓迎いたします。専攻科に進学された方々を別にすれば、多くの皆さんにとって、高専における生活は未知のものでしょう。新しい生活に対する大きな夢と期待、そして少しの不安を胸に、そこに座っておられることと思います。

本校は、昭和40年に国立の高専として石川県の中心に位置する津幡町の東、高台の自然豊かなこの地に設立さ

れて以来、「人間性に富み、創造性豊かな実践力のある研究開発型技術者育成のための高等教育機関」との基本理念の下、約9800人の卒業生を輩出してきました。それらの先輩方は国内外の様々な分野で活躍しています。



新入生の皆さんは、なぜ石川高専を選んだのでしょうか？数学や理科が得意な人、また、ロボットや車が好きな人もいるでしょう。他にも、橋や建築物に興味がある人、プログラミングやゲームの制作を志す人もいるかもしれません。理由はそれぞれ異なると思いますが、本校の専門性の高い教育実績に魅力を感じたのではないのでしょうか。

高専は、中学卒業後に入学し、本科の5年間で高校から大学学部との7年間に相当する学びを提供します。大学に引けを取らない優秀な先生方が、皆さんをしっかり支え導いてくれるほか、同じ日に入学を迎えた多くの仲間たちと助け合い、切磋琢磨できる環境が整っています。さらに、上級生たちも学業や課外活動を通じて、頼れる先輩として後輩を助けてくれます。石川県の企業や自治体をはじめ、多くの地元の方々も、皆さんの志と未来に期待して、実践の場や研究の機会、貴重な資金の提供など、さまざまな形で学びを後押ししてくれます。石川高専の充実した環境のもとで、じっくりと自分の可能性を広げていってください。

さて、皆さんにひとつお願いがあります。世界では心を痛める出来事が続いており、現代社会は急速な変化と技術の進歩に直面しています。このような予測不能な時代を切り開く技術者となるためには、専門分野の学びを深めるだけでなく、幅広い分野に関心をもつ姿勢が欠かせません。専門以外の技術や歴史、文学、語学、スポーツ、アートなどの分野にも触れ、多様な経験を積むことが大切です。新しい技術の代表であるAIは、すでに日常のさまざまな場面で活用され、今後ますます重要な役割を担っていくでしょう。文部科学省の報告書では、AIが様々な情報を処理する時代において、知識量よりも「自ら問いを立てる力」や「他者とともに価値を創り出す力」がより評価されると述べられています。石川高専では、課外活動やコンテスト、海外研修など、多彩な体験ができる機会が豊富に用意されています。皆さんには、学業に真剣に取り組むとともに、様々なことにチャレンジして、それぞれの未来を切り開くための確かな土台を築いてほしいと思います。

今年もブラジル、マレーシア、タイから3人の留学生を迎えることとなりました。言葉も文化も違う環境で勉強することは大変なことだと思いますが、多くの学友と交流し津幡の生活になじんで、思い切り日本の生活を楽しんでください。将来は、皆さんの国と日本の懸け橋になってくれることを希望いたします。

高等学校から第4学年に編入した学生は、これまで勉強してきたことをさらに高めるといふ強い目的意識を持っていることと思います。環境が変わって戸惑うことも多いかもしれませんが、新しい先生方や仲間と触れあい充実した学校生活を送ることを願っています。

専攻科に進学した30名の皆さん、皆さんにとっても今日は新しい挑戦を始める門出です。これからの2年間は、本科で培った基礎をさらに深め、より高い専門性と広い視野を育む期間となります。将来、人間性豊かな新たなイノベーションを生み出す技術者として、グローバルに活躍できるよう、さらに自らを鍛えてください。

最後になりましたが、新入生の皆さん、どうか今日の感激を忘れないでください。その思いを胸に、一人一人の夢の実現のため、自分の可能性を信じて、高専生活を過ごしてください。

ご家族の皆様方に改めてお祝いを申し上げます。教職員一同、新入生の学校生活が実り多いものとなるよう全力を尽くして参る所存です。家庭と学校が連携し、学生たちの成長を心を込めて見守り、励まして参りたいと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。

令和8年4月6日

石川工業高等専門学校長 富田 大志





NEW STUDENTS' VOICES

新入生の声



石川高専に入学して

石川高専に入学してからのおよそ2 か月は、さまざまなイベントとともにめまぐるしく過ぎ、充実した日々でした。たくさんの人たちとの交流や新たな学びが、新しい生活への不安を払拭してくれました。入部したソフトテニス部での日々の練習、機械工学に関する勉強、楽しい寮生活など刺激に満ちた毎日と、優しい先生方や先輩方

1M 谷内 成実

が、今の私を支えてくれています。石川高専には思っていた以上の楽しみやわくわくがありましたが、私はそれに甘えず、自分を律して生活していきたいです。そのために、文武両道、何事にも挑戦する、という目標を立てました。「石川高専に入学して良かった。」卒業したときに後悔しないよう、今を精一杯生きていきたいです。

石川高専で成長したこと

私が石川高専に入学して成長したことは、決断力と責任感だと思います。今まではやろうかなと悩んでいる間に他の人がやっていることがあり、後悔することがとても多かったです。そのため、高専に入ってからそのようなことがないように、学級役員や学生会などやってみたいと思ったら

1E 城岸 俐琥

悩まず行動するようになりました。その分たくさんのことを行うようになるため、自分の行動に対する責任感も出てきました。これからの学校生活では学校の規則を守り、石川高専の学生であることに対する責任感を高め、より良い自分に成長できる時間を過ごしていきたいと思っています。



高専の“みち”

石川高専に入学してからおよそ2 か月が経ちました。半年前まで志望校すら定まらず、親が示してくれた高専という進路を選び、現在ここで学んでいます。入学当初は、知らない人ばかりの環境に不安を抱えていましたが、初日に声をかけてくれたS君との出会いが大きな支えとなりました。彼から学級委員への立候補を勧められたこと

1I 嵐 奏人

をきっかけに、自分の役割や責任について考えるようになり、現在は学級委員として日々の活動に取り組んでいます。今では、当初の不安よりも、この仲間たちと5年間を共に過ごし、共に卒業したいという思いの方が強くなりました。これからも仲間と協力しながら、充実した学校生活を送っていきたいと考えています。

未来のインフラを支える技術者を目指して

1C 新谷 凪

私は、社会を支えるインフラ整備に携わりたいと考え、環境都市工学科を志望しました。

入学当初は知り合いがおらず、自分から積極的に声をかけながらも、新しい環境になじめるか不安を感じていました。しかし、球技大会や合宿研修を通してクラスメイトとの交流が深まり、多くの友人ができました。また、活動を通して互いの新たな一面

を知ることができ、とても良い経験になりました。

学習面では、専門分野の知識や技術をしっかり身につけたいと考えています。特にプログラミングにも関心があり、将来に役立つ力を養っていきたいと思っています。これから仲間とともに学びを深め、充実した高専生活を送っていきたいです。



石川高専に入学して

私は、自分の好きなことを職業にしたいと思っていたので、早い段階から専門教科を学べる高専に魅力を感じていました。体験入学に参加した時に、実践的な学習を通して仲間と学びあえる環境に惹かれ、石川高専に入学することを決意しました。入学してすぐは、クラスメイトの知識量や課題

1A 屋敷 樹

の量に驚かされるなど、不安になることもありましたが、授業や休み時間に話すことが多くなるにつれ、自分にしかない良さを見つけ出し、自信をもって行動できるようになっていきました。これからは、行事にも積極的に参加して、より充実した高専生活を送りたいです。

知識を社会の課題解決の力に変える専攻科での目標

1EM 松元 颯矢

専攻科への進学にあたり、これまでの5年間で培った電子情報工学の知識をさらに深め、より高度な研究に取り組みたいと考えています。

特に専攻科での2年間で頑張りたいのは、現在取り組んでいる獅子舞などの伝統文化と情報技術を掛け合わせた研究の発展です。これまでの活動を通じてデータ解析や機械学習の基礎を学んできましたが、今

後はそれを文化の継承や実際の課題解決にどう活かせるかを具体的に模索していくつもりです。

専門的な技術力を磨くだけでなく、学会発表などの経験も積極的に積みながら、広い視点を持った技術者へと成長できるよう、日々の勉学と研究に全力で取り組んでいきます。



専攻科で深める知識と応用

専攻科に入学し、本科以上に自主的な学習の重要性を実感しています。授業では課題に対する提案を発表する機会が多く、インターネットだけでなく論文や図書館資料を活用して調査を行い、本科で学んだ知識をさらに深めています。こうした学びを通して、専門知識の習得につながっていると感じています。

1AC 本山 愛紗

本科の卒業研究では、金沢市のあるまちなみを3D化し、その空間上で行う避難訓練の効果を定量的に検証しました。専攻科では、この研究を発展させ、現地調査を通して住民への影響を明らかにしたいと考えています。今後も専門知識を深めながら、地域防災に貢献できる研究に取り組んでいきたいと思っています。

1年生

合宿研修



1日目 5月8日 金

- 8:50 対人関係研修・
入所オリエンテーション
- 10:30 学生会・紀友祭実行委員会紹介
- 12:20 本校出発
- 13:10 国立能登青少年交流の家到着
- 13:30 インディアカ大会
- 17:00 夕食・入浴・学科別ミーティング
- 22:30 消灯

2日目 5月9日 土

- 6:00 起床 (6:00~8:40清掃)
- 7:00 朝のつどい
- 7:20 朝食
- 8:40 宿舎点検
- 9:10 石川高専の歴史等を学ぶ、
校歌斉唱
- 10:30 退所式
- 10:45 国立能登青少年交流の家出発
- 12:00 本校到着





機械工学科 担任 團野 光晴

皆さん、元気ですか！ 元気があれば何でもできる。自分の可能性を信じて、いろいろなことにチャレンジしましょう。そして自分の夢を大きく膨らませましょう。広い世界に羽ばたくのもよし、地元の発展に貢献するのもよし。技術立国日本の未来は、エンジニアの卵である皆さんの肩に掛かっています。石川高専で思い切り青春を謳歌して、でっかい人間になってください。期待しています。元気出していきましょう！

電気工学科 担任 吉江 佑介

1年生の皆様、ご入学おめでとうございます。生成AIが普及している今日この頃AIに頼りっぱなしになっていませんか。調べものをする際にAIを用いることがあろうかと思いますが、それによって得られた知識はきちんと自身で精査し、反芻出来るようになります。AIそのものは調査ツールとして有用で否定はしませんが、使ったら使っぱなしでは思考停止癖がつきかねません。うまいAIとの付き合い方を見つけて、思考力を磨いていって下さい。

電子情報工学科 担任 佐野 陽之

新入生の皆さん、今まさに新鮮な気持ちで学校生活をスタートさせていることと思います。新しい知識に触れたときの「どうしてだろう」「もっと知りたい」という気持ちは、皆さんの可能性を大きく広げる原動力になります。授業で初めて知る概念に驚いたり、実験や実習で思い通りにいかない理由を探ったり、部活動で新しい技術に挑戦したり——そんな一つひとつの経験が、皆さんの成長につながります。また、良き仲間との出会いは学校生活をより楽しく、実りあるものにしてくれます。互いを思いやりながら、共に学び合い、人間的にも大きく成長していくことを期待しています。

環境都市工学科 担任 川畠 嘉美

私たちが生きる社会では、正解が一つではない課題に向き合い、自ら考え、仲間と協力しながら解決策を探る力が求められています。高専での学びは、そのような力を育むための挑戦の連続です。授業や実験、部活動や学校行事など、さまざまな経験を通して、失敗や試行錯誤を重ねながら自分なりの答えを見つけてほしいと思います。その積み重ねが、将来を切り拓く大きな力になるはずです。

建築学科 担任 稲積 泰宏

生成AIが当たり前になった今、大切なのはAIに答えを求めるのではなく、AIと共に考え、自分の言葉で表現する力です。生成AIはアイデアを形にする力を何倍にも広げてくれます。その土台となるのが数学やデータサイエンスの学びです。担任として、そしてデータサイエンスの専門家として全力でサポートします。不安なことがあれば、遠慮なく相談してください。共に成長していきましょう。

学 科 ・ 専 攻 科 だより

M 機械工学科

学科長 藤岡 潤

本年度の機械工学科には、新たに1年生43名が入学し、さらに3年生にはブラジルからの留学生1名を迎えました。1年生はすでに製図や実習などの専門科目に取り組み始め、機械工学の基礎を学んでいます。また、昨年度末より金子先生が機械工学科教員として着任し、機械工作実践や製図、卒業研究などを担当しながら学生指導にあたっています。

進路状況

本年度の5年生の進路は、就職希望者が19名、進学希望者が21名と、ほぼ同程度の割合となりました。就職については、今年度も多くの企業から求人をいただいております。設計開発や生産技術、サービスエンジニアなど幅広い分野で活躍の場が広がっています。一方、進学では専攻科推薦入試をはじめ、各大学の入学試験が順次実施されています。本校の卒業生は、講義で学んだ理論と実験・実習を通じて培った実践力を兼ね備え、自ら考えて行動できる人材として大学や企業から高い評価を受けています。学生の皆さんには、高専での学びや経験に自信を持ち、自身の希望する進路の実現に向けて充実した学校生活を送ってほしいと思います。



MEX 金沢見学 (2年生と4年生)

学生の生活

機械工学科では、今年度もさまざまな行事や学外見学を実施しています。年度当初には、同学科会主催による新入生歓迎会が仮設体育館で開催され、学生と教職員が交流を深める機会となりました。また、5月に開催された機械工業見本市「MEX金沢」には2年生と4年生が参加し、企業ブースで積極的に質問を行う姿が見られました。今後、4年生はインターンシップに向けた準備を本格化させます。実際の企業現場でのものづくりを経験することで、技術者としてさらに成長してくれることを期待しています。5年生は進学・就職活動と並行しながら卒業研究にも取り組んでいきます。研究活動や進路選択を通じて、広い視野を持った研究者・技術者へと成長してほしいと願っています。

E 電気工学科

学科長 河合 康典

今年度の電気工学科は、1年生42名と3年生にマレーシアからの留学生1名の合計43名の新入生を迎えました。特に、1年生は例年の倍以上の女子学生15名が在籍しています。4月24日には、電気工学科の新入生歓迎会(和魂会)が開催され、新入生の自己紹介のほか、2～5年生のクラス紹介がありました。1年生は、5月8日、9日に合宿研修を行いました。2年生は、5月22日に第41回いしかわ情報システムフェア(e-messe kanazawa 2026)を、3年生は、5月15日に第62回機械工業見本市(MEX金沢2026)を、それぞれ見学しました。5月14日の春季球技大会では、入賞したのが3年生の屋外バレーボールの準優勝だけとなり、学科対抗でも5位でした。

進路状況

今年度の5年生は43名で、就職希望者が25名、進学希望者が18名となっています。昨年は、就職希望者と進学希望者の数がほぼ同数でしたので、就職希望者が多くなっています。

就職については、今年度も電気業界に限らず、機械、建設、化学、医療、医薬、食品など、様々な分野で電気系技術者の不足が深刻となっていることを、企業との面談から実感しています。今年度も夏季インターンシップから就職につながるケースがありました。5月末現在で21名の就職先が決定しています。

進学については、学力受験で有名な国立大に挑戦する学生もいますが、今年も多くの方が推薦制度を利用しての編入学を希望しています。すでに、5名が本校専攻科の推薦入試に合格しています。全員が希望した大学に進学できることを願っています。



春季球技大会の5年生



MEX 金沢 2026 の見学

I

電子情報工学科

学科長 小村 良太郎

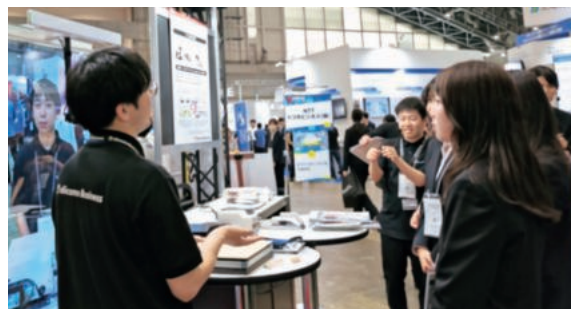
今年度、電子情報工学科では42名の新1年生とタイの高等専門学校からの留学生1名を3年生に迎えてスタートしました。5月8日(金)・9日(土)には、1年生の合宿研修が昨年に引き続き羽咋市の国立能登青少年交流の家で実施されました。新入生たちはクラスメートや教員との交流を深めるとともに、高専生活の心構えや電子情報工学科で学んでいく内容について理解を深めることができました。タイの高専から来た留学生も加わり、学科に国際色豊かな雰囲気が生まれています。

また、3年生と4年生がe-messe kanazawa 2026を見学しました。ICT・IoT関連企業が集まる同展示会では、最先端の技術や製品に触れ、IT技術の実社会での活用を目の当たりにする貴重な機会となりました。

昨年度の改修工事完了から約1年が経ち、「イノベーションラボ」として生まれ変わった演習室・実験室もすっかり定着してきました。清潔で機能的な環境のもと、情報・通信・電子の技術を組み合わせた充実した学習が日々行われています。

進路状況

今年度の電子情報工学科5年生は45名です。そのうち18名が就職希望、27名が進学希望で、それぞれの進路に向けて活発に活動しています。就職希望の学生は、システム開発・組み込み・通信業界・自動車関連など多岐にわたる分野を志望しています。進学希望の学生については、専攻科への推薦や大学編入学を目指して日々の学習に励んでいます。



e-messe kanazawa 2026 見学

C

環境都市工学科

学科長 重松 宏明

4月には41名(男子28名、女子13名)の新入学生を迎えました。ここ数年、女子学生が半分ほど占めていましたが、今年は若干減りました。先日の1年合宿研修では、C科から2名の教員が参加して新入生との交流を深めました。夜の学科別ミーティングでは、簡単な学科紹介と研究紹介をした後、「土木偉人かるた」ゲームを行いました。非常に盛り上がりました。1年生は毎年、環境都市工学基礎の授業で現場見学に行きます。学生たちに環境都市工学に関連する業務がどういうものかを知ってもらいたい良い機会です。上級生になると、金沢港の浚渫工事、橋梁の上部工・下部工やトンネル工事、土質改良プラント、ニューマチックケーソンなど、多くの現場見学に行きます。また、昨年の7月、5年生は地盤工学の授業でニューマチックケーソンの現場見学会に参加しました。場所は七尾市です。本校の卒業生2名(オリエンタル白石㈱)の方々から工事現場の説明を受けました。

進路状況

今年度の進路状況は、就職希望28名(民間企業24名、公務員4名)、進学希望14名(専攻科5名、大学9名)と、進学希望者が例年より多いです。

就職については、県内企業は勿論のこと、県外からは大成建設や鹿島建設、清水建設、竹中工務店のような大手建設会社、ニュージェックやオリエンタルコンサルタンツのような大手コンサルタント会社、そして大阪ガスや東京ガス、東京水道、東京下水道サービス、北陸電力、中部電力、NEXCO中日本グループといったインフラ系の会社からの求人が大幅に増えています。5月中旬で20名の学生が既に民間企業から内々定を頂戴している状況です。

公務員志望者は6月初旬に実施される国家公務員採用試験(大卒程度)に向けて猛勉強中です。

進学については、専攻科推薦入試に合格した5名を除き、6月以降に実施される大学編入学試験に臨んでいます。

ニューマチックケーソン(七尾市国分町)の現場見学の様子
(2025年7月28日)

A

建築学科

学科長 内田 伸

建築学科は、今年度 40 名の新入生、4 年次に 2 名の編入生を迎えました。学科学生は留学生 1 名を含む 211 名になります。(うち 4 年生 1 名が休学・留学中です) また、昨年度着任された大和先生、横林先生に続き、新たにクロスアポイントメント制度により、(株) 金沢計画研究所から漆崎義和先生を迎え、11 名体制となり、さらに建築・演習系科目をサポートする技術職員の西村さんも増えました。なお昨年度末に退職された道地慶子先生(本校・名誉教授)は、鹿児島高専の校長先生に着任されました。

学生の活躍

昨年度も様々な賞を受賞しました。一部を紹介します。建築甲子園 2025 では準優勝/大学コンソーシアム石川「地域課題研究ゼミナール支援事業」において奨励賞/石川県デザイン展において、学生部門第 1 部で奨励賞(2 作品)、学生部門第 2 部で、銀賞、銅賞、奨励賞(各 1 作品)を受賞/全国高専デザコン 2025 において、創造デザイン部門で審査員特別賞と企業賞、空間デザイン部門で企業賞/金沢市木の文化都市学生提案事業では優秀賞/インフラテクコン 2025 では企業賞/珠洲おためし滞在拠点デザインコンテスト 2025 では「おためし滞在記賞」を受賞しました。学生主体による同学科会(新入生歓迎会)が、今年度も建築学科全学生が集まり開催されました。



2026 新入生歓迎会

進路状況

昨年度卒業生の進路は、就職が 22 名、進学が 15 名となり、進学者のうち 3 名が本校専攻科に在籍しています。本年度は、5 年生 38 名のうち、17 名が就職を、21 名が進学を希望しています。学生の進路は多様ですが、建築学科で同じ教育を受け、学んだ学生たちが、ゼネコンや設計事務所だけでなく、自治体の建築職や地域の建設業など、社会の多様な場所に散らばることで、国内の質の高い建築や維持管理につながっています。

専攻科

専攻科長 山田 悟

本年度は、電子機械工学専攻に 23 名、環境建設工学専攻に 7 名の新入学生を迎え、専攻科全体の在籍者数は 54 名となりました。本校専攻科では、ここ数年 JABEE 認定審査、特例適用認定を受けた専攻科に対する教育実施状況等の審査など、外部機関による教育の質保証に関する評価が継続して行われてきました。これらの審査を通じて、本校専攻科の教育内容や運営体制について一定の評価を得ることができたことは大きな成果であり、昨年度からは、その評価結果を踏まえながら、より安定的かつ継続的な教育運営に取り組む段階に入ったと考えています。本校では、出身学科の垣根を越えて課題解決に取り組む「創造工学演習」や、約 2 か月間にわたる「長期インターンシップ」など、特色ある教育プログラムを引き続き実施しています。また、専攻科生の研究活動についても、専攻科として研究成果をより効果的に社会へ発信するための方策などについて検討を進めています。さらに、令和 7 年度の本学カリキュラム改訂を踏まえ、専攻科教育との接続を意識したカリキュラムの見直しについても検討を開始しており、今後の教育内容のさらなる充実を目指しています。

専攻科修了後の進路については、近年、大学院進学を希望する学生が増えていることを実感しています。本科から継続して取り組んできた研究分野をさらに深く学びたいという意欲に加え、長期インターンシップを通じて自身の将来像を見つめ直した結果、大学院進学を志望する学生も見られます。大学院進学は決して特別な進路ではなく、有力な選択肢の一つとして定着しつつあります。一方で、就職を希望する学生についても、長期インターンシップを通じて培った経験を生かしながら、自身の希望に沿った進路選択を実現しています。今後も学生一人ひとりの進路実現を支援するとともに、専攻科教育のさらなる発展に努めてまいります。

学生相談室だより

高専での学生生活は15才から20才までの5年間。専攻科までいくと20才から22才までの2年間で計7年間です。高専本科を卒業する頃に「住むに甲斐ある世」を知ってもらえればと思います。専攻科を修了すると、「明暗」が見えてくるかもしれません。

石川高専は工学を学ぶ学校です。技術を知る学校です。物を創り出すことができるようになる、そういう学校と思って良いと思います。機械ってどうやって動いてるの？電気回路ってどうなってるの？プログラムってどうやって組むの？都市って何でできてるの？建物ってどうなってるの？物をつくるということに関わって、特に大きな物になればなるほど、それを造ろうとすると一人ではできなくなってきます。もしかすると小さい物をつくろうとしても、一人では無理かも。誰かと一緒にチームを組んで、いろいろな物を造っていきます。協力、共同、連携、プレゼンテーションがあります。チームワークが必要です。

そんな時に、他人と生きることが所与の現実であることに気がつきます。いつの間にかそれがあたり前になっていきます。高専の5年間でそれができるようになっていく。

そして、たぶんその難しさに頭を悩ませるときがでてくると思います。

そんなことを経験していくなかで、「いかにして共に生きるか」を考えていけるようになると良いんじゃないか、学生相談室では、そのサポートができるんじゃないか、と思っています。

学生相談室利用案内

学生相談室を利用してみませんか

学生時代、多感な時期に悩みをもたない人はいません。一人で悩み、深刻になる前に相談室員の先生や保健室、カウンセラーの先生を訪ねてみましょう。

- 学業について
- 性格について
- 友人関係について
- ハラスメントについて
- 恋愛について
- 家族について
- 進路について

学生相談室を利用するには

直接、学生相談室・相談員の先生の教員室を訪ねる

- 相談室員の先生と時間が合えばいつでも利用できます。
- 相談室員の先生は、教員室で相談にのります。
- 先生に相談しにくい場合は、保健室に連絡してください。

保健室で予約する

- カウンセラーの来校日の確認や、予約ができます。
- 電話やメールでも受け付けています。

担任、相談室員、指導教員の先生に予約してもらう

- 先生方が窓口となり、保健室への問い合わせをお願いすることもできます。

●相談室員（令和8年度）

- ・ 学生相談室長：村田一也（建築学科）
- ・ 学生相談室員：山崎 梓（一般教育科） 穴田 賢二（機械工学科）
岡本 征晃（電気工学科） 任田 崇吾（電子情報工学科）
高野 典礼（環境都市工学科） 小川 福嗣（建築学科）
- ・ 保健室：堀井 佳美（看護師・インテーカー）
- ・ 外部カウンセラー：西村 優紀美 高村 梓 深江 有理佳 喜多 大輔
- ・ スクールソーシャルワーカー：山本 悠 梅原 智恵子

●カウンセラー来校日 月曜・水曜・金曜

【時間】14:00～17:00

※相談がある人は保健室まで連絡してください。

保護者の方も利用できます。

※詳しい日程は、teams やホームページをご確認ください。

【学生相談に関する連絡先】

TEL:076-288-8037

Email:hoken@ishikawa-nct.ac.jp

HP <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/soudan/>

石川高専>学生生活>学生相談室

KOSEN ところどころからの学外相談室㊦

予約不要

☎ 電話相談

利用時間：毎日 15:00～24:00

匿名での相談が可能です。



※電話相談は何度かけても無料です。※専門の医療機関の案内も可能です。※海外からはご利用いただけません。



0120-792-151

利用可能期間：2026年5月1日～2028年3月31日



通話料無料

スマートフォン・携帯電話
からもご利用可能です。

● 国立高専在学中の学生ご本人と保護者および教職員がサービスをご利用いただけます。 ● 卒業生および退職者の方はご利用いただけません。

※相談内容や氏名等の個人情報保護法等の法令に定めのある場合を除き、第三者（学校を含む）に提供いたしません。

令和
7年度

卒業証書・修了証書授与式

令和8年3月19日、津幡町文化会館「シグナス」において令和7年度卒業式を挙行了しました。
本科生188名、専攻科生30名がご家族等を始め、在校生や教職員に見守られ、石川高専を巣立ちました。

告辞

今年の冬は雪の日が多かったですが、最近は吹く風に春の訪れを感じるようになりました。今日、晴れて卒業式・修了式を迎えられる皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同ならびに在校生を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の皆さまもさぞお喜びのことと思います。卒業生・修了生に代わりまして、これまでの温かいご支援に深く敬意を表しお祝いを申し上げます。

本日、本科卒業生188名、専攻科修了生30名が本校を巣立っていきます。皆さんは、中学校卒業後、多くの同級生とは異なり、高等教育機関である本校に入学し、実践的かつ創造的な技術者への道を選びました。1年生からの専門教育、多くの実験・実習やインターンシップ、そして力試しの場でもある様々なコンテスト等は、新鮮な体験であるとともに、初めのうちは苦勞し、戸惑いもあったかもしれませんが、今日ここに卒業・修了を迎えられたということは、この5年間、あるいは7年間で、皆さんが大きく、そして遅く成長したと認められた証です。

卒業生の中には、マレーシア、マリ、モンゴルから4名の留学生がいます。故郷を離れ、異文化の中で言葉や生活環境の違いを乗り越え、勉強に励み、学業を全うされたことに心から賛辞を送ります。

振り返ってみると、本日卒業式を迎える皆さんの大半が入学された2021年4月は、新型コロナウイルス感染症の流行の真っただ中であり、大きな制約の中での門出でした。マスク着用や三密回避など行動が制限される中、新しい環境でのコミュニケーションに苦勞された日々もあったでしょう。2年前の1月には能登半島地震が発生し、やっと平常に戻った学生生活が影響を受けるのではと心配された方も多かったのではないのでしょうか。私が皆さんと共に過ごしたのは2年足らずですが、地震の被害による不便さや困難を傍らに置きつつ、目の前のことに真剣に取り組む様子に逞しさを感じました。度重なる悪天候に見舞われながらも臨機応変に対応し、フィナーレの花火まで見事にやり遂げた11月の紀友祭では、真摯に取り組む皆さんの姿に心を深く動かされました。専攻科生が築き上げた伝統が、本科の学生に確かに受け継がれていると感じています。

さて、皆さんは4月から新しい就職先や進学先へと進んでいきます。世界では心を痛める出来事が続き、社会の変化もこれまで以上に速くなっています。科学技術の進歩も目覚ましく、AIやロボットは身近な存在となり、空想の世界にしかなかった空飛ぶクルマや月面での生活なども、実現に向けて具体的に動き出しています。

そのような状況の中で、将来を見通すことは難しく、不安を感じることもあるでしょう。しかし、心配しすぎる必要はありません。皆さんが本校で学んだもののづくりの基礎技術や専門性、そして幅広い教養は、どんな時代においても最大の武器となるでしょう。

そして、国際的な視野を広げることも重要です。建築家の安藤忠雄氏は「島国日本に住む人間の一番の弱みは国際感覚の欠如です。」と語っています。独学で建築を学び、今や世界的な建築家となった安藤氏は、若い頃に世界中の建築を見て回り、「世界の大きさと深さを意識した。」と述べています。私自身も若き日に海外で得た経



験は、今でも貴重な財産です。初めてガウディの建築を見たときの感動は、その時の景色とともに今でも胸に焼き付いています。現在は、SNSやインターネットを通じて世界の情報が簡単に得られる

時代になりました。しかし、本日卒業及び修了される皆さんには、ぜひ世界を自分の目で見て、肌で感じる機会を積極的に作り、グローバルな視野を育ててほしいと思います。

最後に一つお願いがあります。これからの人生において、困難に直面し、心が折れそうになることもあるでしょう。そんな時に自分を癒す手段をもってください。家族や友人とのおしゃべり、スポーツや趣味に打ち込む時間、好きなアーティストや推しのライブに出かけること、あるいは何もせずに静かに過ごすひとときなど、その形はどんなものでも構いません。自分に合った癒しの手段をいくつか持っていることは、心の余裕や他者への共感にもつながるはずです。

私は新聞の特集記事で、高専生に観てほしい映画として、「ニュー・シネマ・パラダイス」を紹介しました。この作品は私が建築を学ぶ一つのきっかけとなった映画です。物語の中で、映写技師が村を旅立つ青年に語る言葉があります。

「何をするにしても自分のことを愛せ。子供の頃、映写室を愛したように」

この言葉を、新しい道に進む皆さんに贈ります。

本校は創立60周年を迎え、これまで9600名の卒業生を社会に送り出してきました。先輩方は、国内外の様々な分野で活躍しており、私が若い頃に仕事のいろはを教えてもらった先輩も、石川高専の卒業生でした。皆さんには、本校の卒業生であることに自信と誇りを持ち、自分の選んだ道を愛し、夢を抱き続け、力強く歩んで行くことを期待しています。

本日は誠におめでとうございます。

令和8年3月19日 石川工業高等専門学校校長
富田 大志



Messages

from 卒業生・修了生

卒業生・修了生が学校生活を振り返っての思い出や頑張ったことなど、後輩たちへのメッセージを綴ってくれました。

高専の5年間を振り返って

機械工学科 赤坂 朋哉



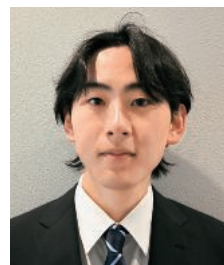
私が期待と不安を胸に抱え高専に入学してから5年が経ちました。振り返ると様々な出来事を思い出すことができます。コロナ禍の中行事や授業が制限された中の入学から始まり、所属している柔道部で段位を取得し、少しでもよい成績を残そうと奮闘したり、友人たちと旅行へ行き、心ゆくまで遊んだ思い出など、目を閉じれば様々なことを昨日の日のように思い出せます。高専の行事に限っても、球技大会で高順位となるためにみんなで体育館を借りて練習したバレーボールや、慣れないダンスの慣れないステップに四苦八苦したり、露店の運営に東奔西走した紀友祭、海外研修旅行では初めての海外で日本との違いに驚かされるなど、体験した思い出や鍛えた心身は私を構成する重要な要素として私に深く根付いています。

2024年1月1日、私の人生や価値観を大きく変化させる出来事がありました。能登半島地震です。奥能登の震源地からさほど遠くない地域に実家を持つ私にとって、被災時の恐怖や不安は、震災から2年の年月が経っても忘れることはありません。そしてその中でなんとか連絡を取り、励ましてくれた友人達の言葉もまた、この先忘れることはないと思います。

最後に後輩の皆さんへ。高専での学生生活では課題やレポート、資格取得、部活、行事など、やること、やらなければならないことが多いと思います。しかし、なんとか時間を作り、時には食う間、寝る間を惜しんで、「今しかできないこと」にチャレンジしてみてください。きっとあなたを構成する大切な思い出となります。

卒業を迎えて

電気工学科 岩尾 紘嗣



入学してから卒業までを振り返ると本当にいろいろありました。入学したての時はまだコロナ禍の影響が残っていたししばらくはオンラインで授業していました。学校に通えるようになってからも80分の短縮授業だったり、マスク・検温の義務があったりで通常の授業とは程遠い状況だったことを覚えています。3年生の時はほぼ通常通りの紀友祭や球技大会を行うことができましたが、4年生になる年には能登地震が発生して体育館やグラウンドは使えなくなり、また通常通りとは言えない生活に戻ってしまいました。しかし、そんな中でもたくさんの思い出を作ることができました。

勉強の成績は異次元とはいかないものの常に高い平均をキープし、球技大会では球技よりもダーツやモルックの成績の方が良かった5E。みんなで力を合わせる機会は少なかったですが、それでも最高に楽しいクラスでした！ありがとうございました！

紀友祭準備や本番で友達と励まし合い、協力し合って劇や露店を成功させた思い出は今も鮮明に思い出することができます。社会に出て仲間と協力した経験を活かしていきます。後輩の皆さんへ。今できることを余すことなく楽しんでください。そして、その先の進路についてよく悩み、良い決定が下せることを祈っています。

最後に、私たちに向き合い、時に叱り、教え、支えて下さった先生方へ。先生方がいて下さったおかげで、私たちは高専生として旅立って行くことができます。5年間本当にありがとうございました。

高専での5年間を振り返って

電子情報工学科 渡邊 銀士郎



私の高専生活は、陸上競技と学校行事に真剣に取り組んだ5年間でした。入学してすぐに入部した陸上部では、思うように記録が伸びず悔しい思いをすることもありましたが、仲間と励まし合いながら努力を重ねることで、少しずつ成長を実感できるようになりました。大会で自己記録を更新したときの喜びや、仲間とともに目標に向かって努力した経験は、かけがえのない思い出です。陸上競技を通して、継続して努力することや仲間と支え合うことの大切さを学ぶことができました。

また、5年生では紀友祭実行委員会企画課長を務め、参加する側として楽しむだけでなく、運営する立場で紀友祭のような大きなイベントを支える経験ができました。企画の考案から準備、調整をする中で多くの課題に直面しましたが、周囲の仲間の支えを受けながら、一つ一つ乗り越えることができました。当日は雷雨に見舞われ全てが予定通りにはいきませんでした。多くの来場者を楽しんでいただくことができ、大きな達成感を得ることができました。MVCをとれたことも大きな思い出の一つです。一緒に頑張ってくれた委員長、幹部課長・副課長、責任者の皆さん、クラスのみんな、ありがとう。

高専での5年間は、勉強だけでなく、部活動や学校行事を通して多くのことを学び、成長することができた大切な時間でした。高専生活で得た経験を糧に、今後も努力を重ね、社会に貢献していきたいです。

後輩の皆さん、自分のやりたいことを思う存分やり続けてください。失敗を恐れずチャレンジし続けたらいつか自分にとって大きなものが得られると思います。

卒業を迎えて

環境都市工学科 田中 瑠音



長いと思っていた5年間もあっという間に過ぎ、無事卒業を迎えることができました。最初の頃は5年間同じクラスで友達ができるかや勉強に対する不安など多くありましたがとても充実した高専生活でした。

高専生活で様々な経験をしてきましたが、最も印象に残っているのは5年生で行った卒業研究です。橋梁に関する研究をしていたため実際に橋梁に実験に行ったりしました。冬の現場はとても寒く辛い時もありましたが、今では実際に現場に行くことができてよかったと思うし、社会に出ても役に立つ経験だったと思います。また私の卒研室では月1イベントを行っていたので自分たちで計画していろいろな経験をすることができました。たこ焼きパーティーや鍋パーティーなど普段できないことをすることができ楽しかったです。卒業研究は初めてのことばかりで初めは何をすれば良いのかもわかりませんでしたが、先生や専攻科の先輩方に助けられながらなんとかやり遂げることができたと思います。

在校生の皆さんには大変なこともたくさんあると思いますが、様々なことに挑戦してほしいと思います。なかなか勇気が出ないと思いますが、一歩踏み出すことができればより充実した高専生活を過ごすことができると思います！

最後に5年間関わってくださった全ての方々に感謝致します。本当にありがとうございました。

皆さんはどちらですか？

建築学科 奥村 悠一朗



私が初めに言いたい事は「石川高専は地獄よりの天国だった」ということです。この5年間は天国のように楽しい思い出と、地獄のように辛い思い出で溢れています。私たちが入学した頃はまだコロナの影響があり、クラスメイトの素顔を初めて見たのは新入生歓迎会だったような気がします。寮の食堂には感染対策の白いパネルが設置されており、向かいの友達と話すたびにパネルの上から顔を出す、まるで超大型巨人のような状態でした。パネルがなくなった時の解放感や喜びは、一生忘れないでしょう。建築学科といえば自他ともに認める課題が多い学科です。鳥のさえずりで朝になったことを知り、友達と食べる徹夜明けのご飯はいつもと一味違いました。よく高専は自由だと言われますが、その通りだと思います。特に放課後は部活や遊び、帰宅など様々でした。私は卓球部と建築研究部に所属していました。高専から始めた卓球は、何より楽しく最高の選択だったと思います。仲間と先輩に連れて行ってもらった全国高専大会は自分の行動範囲を一気に広げました。能登に行けば美しい海が、台湾には別世界が広がっていました。SNSで見る南国の海やヨーロッパの町よりも、私には刺激的でした。最後に在校生に伝えたいことは、高専は自分次第で天国にも地獄にもなるということです。天国がいいのか地獄がいいのかはその人次第ですが、入学して良かったと思えるよう、高専生活を送ってください。

納得のいく未来を選ぶために

電子機械工学専攻 大谷内 昌充



長いようで短かった7年間の高専生活も、まもなく幕を閉じようとしています。

本科年生の頃の私は、周囲の友人に流されるまま、漠然と就職を考えていました。しかし、自分が社会で働く姿を具体的にイメージできず、「このままでは後悔する」という焦燥感から専攻科への進学を決意しました。

専攻科での2年間は、自分自身と真摯に向き合う貴重な時間となりました。自分が何に喜びを感じるのかを深く掘り下げ、インターンシップ先の方々や身近な社会人の先輩に相談を重ねました。就職活動中には、SNS上の不確かな情報や他人の内定報告に焦りを感じることもありましたが、情報の真偽を見極め、惑わされないことの重要性も学びました。そして活動を通じて肌で感じたのは、社会からの高専生に対する評価の高さと、私たちには多様な選択肢が用意されているということです。

どのような業種や勤務地を選ぶかで、生活環境や未来は大きく変わります。どの道に進むのが正解なのかは、誰にも分かりません。だからこそ、在校生の皆さんには、広い視野を持って多くの選択肢を検討し、徹底的な自己分析と照らし合わせながら、悔いのない決断をしてほしいと願っています。

私自身も、自分で選んだこの道が「正解」だったと胸を張れるよう、新たなステージでも全力で挑戦しつつ、楽しんでいきたいと思います。

最後に、7年間私を支え、導いてくださった先生方、家族、そして共に学び切磋琢磨し合った友人に心より感謝申し上げます。

すべての出会いに、感謝

環境建設工学専攻 御手洗 友哉



本科5年間、専攻科2年間、計7年間の高専生活を終えて、私は石川高専に強い愛着を持っています。小学校、中学校よりも長い時間同じ学校に通うわけなので大変だねと言われることもしばしばあります。しかしそのおかげで、濃く深い人間関係を築くことができたと感じています。

まず第一に、熱心な先生との出会いがありました。私はソフトテニス部に所属しており、7年間の全てをソフトテニスに捧げました。全国各地で行われる大会のほとんどに引率していただき、1～3年生の時には朝練にも付き合ってくださいました。そのような恩師に出会えたことは私の人生において大きな財産であり、心から感謝しています。

また、どれだけソフトテニスを愛していても一人では高い熱量を保ち続けることはできなかったと思います。高専では3学年で部活動を引退することが一般的ですが、それでも4年生以降の大切な時間を自分と一緒に過ごしてくれた同期や後輩は、かけがえのない存在です。

さらに、恩師や仲間との出会いに加えて、高専生活では社会の仕組みについて学ぶ機会が多かったことも今の私を形作る大きな経験でした。本科4年では2週間、専攻科1年では2ヶ月間のインターンシップを通して、実際の社会で物事の取り決めを行うプロセスや、様々な人間関係を肌で感じて学ぶことができました。

石川高専での7年間は、今後の人生においてもかけがえのない、非常に大きな時間でした。これまでのさまざまな経験を糧にして新たな環境でも大きな成果を出せるよう、励みたいと思います。7年間で関わってくれた、成長させてくれた多くの方々に、感謝します。

令和7年度進路状況

●就職・進学状況

学科等 区分	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	専攻科	計
卒業・修了者数	37	35	39	37	40	30	218
就職者数	22	16	21	32	22	23	136
進学者数	14	19	18	5	15	7	78
その他	1	0	0	0	3	0	4
求人企業数	910	951	858	755	744	3096	7314
求人倍率	41.4	59.4	40.9	23.6	33.8	134.6	53.8

●地域別就職状況

学科等 区分	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	専攻科	計
石川	5	3	4	9	5	11	37
富山	1	2		3	2	2	10
福井	1					1	2
北海道・東北		1				1	2
関東	7	4	15	15	13	7	61
東海	3	2	2	1			8
近畿	5	4		4	2	1	16
計	22	16	21	32	22	23	136

●産業別就職状況

学科等 区分	機械工学科	電気工学科	電子情報工学科	環境都市工学科	建築学科	専攻科	計
建設		1		18	13	10	42
製造業	食品・たばこ	2	1				3
	金属製品・鉄鋼・非鉄	1	1	1	2	1	6
	一般機械	9				2	11
	電気機器	1	1	2		2	6
	電子機器		2	2		3	7
	輸送用機器	3	2				5
	化学・繊維	2				1	3
	その他製造	2	1	1	2		6
運輸・通信・情報	1	3	15	1		3	23
電気・ガス・水道		4		7	1		12
卸売業・小売業	1				3		4
不動産業							0
派遣業・サービス業			1				1
公務員・教育学習支援				5	1	1	7
計	22	16	21	32	22	23	136



令和7年度 資格等試験合格者一覧

(学年は合格時、公表承諾者のみ掲載)



第二種電気工事士試験

3 E 小原 颯真 齋藤 文武 新保 海瑠 丹羽 龍生
水上 和人

基本情報技術者試験

3 E 小原 颯真
3 I 河村 望準 菊知 桜亮
5 I 中川 耀登 松本 悠希

ITパスポート試験

4 C 大割 悠也
4 I 金森 香純

技術士第一次試験(建設部門)

4 C 沖谷 昂亮 須賀 康太 谷村 結海 土手下 乃彩
長永 怜奈
5 C 嶋田 彩希 田中 瑠音 田村 秀斗 中嶋 めぐ
前川 空良 正木 菜々美 山下 日奈多

1級土木施工管理技術検定(第一次検定)

4 C 大橋 実莉 大割 悠也 清造 竜之丞 辻 康大
土手下 乃彩 長島 玄樂 中村 紗英 延田 和陽
宮崎 蒼葉 山田 真之介 山本 莉沙

2級土木施工管理技術検定(第一次検定)

3 C 上杉 郁仁 呉山 優太 山平 深月
4 C 高口 華子

2級建築施工管理技術検定 第一次検定(2級建築施工管理技士補)

3 A 鈴木 優和 高野 蒼大 中西 建統
4 A 橋本 亜寿奈

1級建築施工管理技術検定 第一次検定(1級建築施工管理技士補)

5 A 諸橋 茉歩

二級建築士試験

1 A C 鶴川 莉楓 川淵 恋加 保地谷 日南 松平 花奈
2 A C 村井 ひより

日商簿記2級

4 E 吉井 悠

実用英語技能検定2級

1 E 小松 亨佳

応用情報技術者試験

3 I 徳重 瑛大 河村 望準

情報処理安全確保支援士試験

3 I 徳重 瑛大

宅地建物取引士資格試験

2 A 北嶋 健人
5 A 弓田 慈人



令和8年度 学生役員



学生会

会 長 4 I 太田 和奏
副会長 4 I 津田 妃奈美
3 E 高地 響生
3 A 福田 大気

第61回紀友祭実行委員会

委員長 5 M 倉知 海偉

寮学生会

総 代	4 A	川島 有陽	会 計	4 C	山平 深月
副総代	4 E	常木 智史		3 M	松本 忠士
	4 C	山平 深月	広 報	4 A	西野 成
海寮長	4 A	小関 千滋		3 A	福田 大気
山寮長	3 E	田淵 湊太郎			
中寮長	3 A	有山 怜			
宙寮長	4 C	松島 千夏			

DATA BOX 2026

役職員等名簿

役職員

校長	富田 大志	電子機械工学専攻主任	松本 剛史
副校長(地域・国際連携担当)	津田 誠	環境建設工学専攻主任	新保 泰輝
副校長(教務担当)※教務主事	義岡 秀晃	情報戦略基盤センター長	川除 佳和
副校長(学生担当)※学生主事	北田 耕司	情報戦略基盤センター次長	東 亮一、三吉 建尊
副校長(寮務担当)※寮務主事	岩竹 淳	トライアル研究センター長	堀 純也
校長補佐(図書・情報担当)	畔田 博文	トライアル研究センター次長	越野 亮、大橋 慶介
校長補佐(専攻科担当)※専攻科長	山田 悟	技術教育支援センター長	津田 誠
校長補佐(入試広報担当)	長岡 健一	学生相談室長	村田 一也
校長補佐(国際連携担当)	大橋 慶介	図書館長	畔田 博文
校長補佐(点検評価担当)	山田 洋士		
校長補佐(KIS/JABEE 担当)	船戸 慶輔		

学科(科)長

一般教育科長	森田 健二	電子情報工学科長	小村良太郎
機械工学科長	藤岡 潤	環境都市工学科長	重松 宏明
電気工学科長	河合 康典	建築学科長	内田 伸

学級担任

	1年	2年	3年	4年	5年	留学生指導教員
機械工学科	團野 光晴	藤谷 雄平	小林 裕介	穴田 賢二	池田 生馬	3年：小林裕介 4年：穴田賢二 5年：池田生馬
電気工学科	吉江 佑介	香本 直子	仲林 裕司	田中 文章	上町 俊幸	3年：仲林裕司、河合康典
電子情報工学科	佐野 陽之	永井 隆之	川除 佳和	嶋田 直樹	越野 亮	3年：川除佳和、小村良太郎 4年：嶋田直樹、小村良太郎 5年：越野亮、小村良太郎
環境都市工学科	○川畠 嘉美	富山 正人	大橋 慶介	高野 典礼	○寺山 一輝	4年：高野典礼、重松宏明
建築学科	稲積 泰宏	○小林 竜馬	○横林 修造	○大和 裕也	秦 明日香	5年：秦明日香、内田伸

○印は学年主任

課外活動指導教員名簿

運動部

サッカー	★松本 剛史	金尾 奨	廣田 篤	剣 道	★山田 洋士	秦 明日香	鍛冶 桃子
バスケットボール	山田 健二	★岡本 征晃	田中 文章	バレーボール	村田 一也	義岡 秀晃	★服部 峰大
	池田 生馬	○横林 修造	山田 悟		永井 隆之	★森田 健二	上町 俊幸
	★寺山 一輝	熊澤 栄二	モナスチャルトンビル	陸上競技	★岩竹 淳	古崎 広志	小林 竜馬
野球	★北田 耕司	★川除 佳和	徳井 直樹		恩村 定幸	倉部 洋平	▲南 雅樹
	穴田 賢二	寺本 裕志	藤谷 雄平	バドミントン	長岡 健一	★高野 典礼	仲林 裕司
卓球	任田 崇吾	藤岡 潤	山崎 梓		三吉 建尊	○廣瀬 慈恩	○小田 洋平
	★吉江 佑介	新保 泰輝		水泳	★矢吹 明紀	長谷川雅人	○小林 裕介
柔道	★畔田 博文	前田 健児	越野 亮	ワンダーフォーゲル	★團野 光晴	富山 正人	重松 宏明
ソフトテニス	森原 崇	★川畠 嘉美	堀 純也	ハンドボール	★東 亮一	津田 誠	長谷川雅人
	小川 福嗣				○稲積 泰宏		
テニス	★河合 康典	佐野 陽之	富山 正人				
	小村良太郎	團野 光晴	大橋 慶介				
	大和 裕也						

文化部

美術・デザイン	★服部 多恵		環境都市研究	★重松 宏明	高野 典礼	
写真	★義岡 秀晃		茶道	★堀 純也		
吹奏楽	★船戸 慶輔	金子 義幸		藤岡 潤	★嶋田 直樹	穴田 賢二
英語	香本 直子	★鬼頭 美帆	モナスチャルトンビル		池田 生馬	○小林 裕介
建築研究	★内田 伸	漆崎 義和			矢吹 明紀	堀 純也
電子情報研究	小村良太郎	★越野 亮	任田 崇吾			

同好会

ダンス	★ホアンキム オアン	金子 義幸	将棋	★越野 亮
軽音楽	★恩村 定幸	越野 亮		

★は、第一顧問です
●は、高度人材育成教員です
▲は、サポートです

国際交流だより

副校長（地域・国際連携担当） 津田 誠

新型コロナウイルスの影響により中止になっていた本科4年生で実施していた海外研修旅行が全5学科にて再開され2年目になりました。今年度は3学科が台湾、2学科がベトナムになり、それぞれ海外指定校と交流プログラムや企業見学等を行う予定です。また、令和5年度から「トビタテ留学 JAPAN」の募集が再開され、また、その他の海外留学や研修プログラムに参加希望する学生が増え、将来グローバルに活躍することを目指し、海外へ向けての活動が活発化しております。

昨年度からフィリピンのセブの語学学校にて夏休み期間中に19名、春休み期間中に4名の学生が2週間の海外語学研修を行いました。

加えて2024年度から本校専攻科1年生向けの海外インターンシップ・プログラムが実施されました。この取り組みは本校の支援企業団体「技術振興交流会」の会員企業により、本校教職員とともに、プログラムを作成していただき実施しているものになっております。昨年は2企業で専攻科1年生2名の学生が参加しました。

今回は、本校の国際化に向けての強化として、鬼頭先生に、フィリピン・マクタン島（セブ）にて実施されました語学研修の状況について、ご報告をお願いいたしました。

「フィリピン・マクタン島（セブ）にて語学研修を行いました」

一般教育科 鬼頭 美帆

令和7年度は夏季（2025年8月31日～9月14日）および春季（2026年3月14日～29日）海外語学研修をフィリピン・マクタン島（セブ）で実施し、多くの学生が参加をしました。本校ではこれまで本科1～3年生の低学年を対象とした海外語学研修等を実施していませんでしたが、近年低学年から海外で学びたいという学生のニーズが高まっていることを受け、その要望に応えるとともに、安心して海外での学習や異文化体験に取り組める機会を提供することを目的として、本研修を実施しました。研修は、本校が推進する「石川高専グローバルエンジニア育成事業」の一環として実施されたものであり、参加を希望し、かつ事前の選考試験において優秀な成績を収めた学生に対しては、研修費用の一部を補助しました。

フィリピン・マクタン島（セブ）にある語学研修施設 Joyful Education Center にて15日間の英語研修を行いました。この研修が初めての海外渡航となる学生も多く、渡航前オリエンテーションではパスポートの取得、渡航準備、入国についての注意などの説明を丁寧に行いました。出発当日は本科1～3年生の学生（夏季19名／春季4名）がやや緊張した様子で小松空港に集合し、環境都市工学科の大橋慶介先生の引率でフィリピンに飛び立ちました。韓国仁川空港での乗り継ぎを経て、出発当日の夜遅くに無事に研修先ホテルへ到着すると、その翌日から早速研修が始まりました。プレイスメントテストの結果に応じて、学生はそれぞれのレベルにあったグループに分かれて担当教員と今後の学習プログラムについて説明を受けた後、授業が始まりました。フィリピン語学研修の大きな特徴は、学校に併設されたホテルに滞在しながら、マンツーマンレッスンを中心に英語を集中的に学ぶことです。学生は午前9時から午後6時まで、プライベートレッスンと4人程度の小グループレッスンで学び、クラスによっては施設内のプールでの水泳レッスン、ウクレレ演奏や歌などのアクティビティも楽しめます。週末は船に乗って近隣の島をめぐるアイランドホッピングとスノーケリングで、フィリピンの美しい海を楽しんだり、ショッピングセンターで珍しい食べ物を試したり、ドライマンゴーなどのフィリピンらしいお土産を購入して現地での滞在を楽しんでいました。最終日には卒業式が行われ、担当教員から卒業証書を受け取った後は音楽パフォーマンスを披露しました。卒業式後は担当教員と写真撮影をしたり、授業を通して仲良くなった他の留学生と交流を楽しんでいました。学生からは「プライベートレッスンでたくさん話ができて楽しかった」「スピーキング力があがった」など、さっそく2週間の学習の成果を感じている声が多く上がりました。

2022年に設立された語学学校 Joyful Education Center はリゾートエリアにほど近い落ち着いた場所にあります。24時間体制で警備員が常駐しており、安全に滞在ができるだけでなく、体調不良や困りごとがある場合には日本人スタッフが丁寧に対応をしてくれ、学生は安心して滞在することができました。施設内には、プール、ジム、食堂、スパなどがそろい、ハードな学習スケジュールの合間を縫って、学生はジムやスパで気分転換をしたり、食堂でおしゃべりを楽しんでいました。フィリピンの国民性か、明るくてフレンドリーな講師との会話の中ではフィリピンの文化や生活スタイルなどの話題もあがり、異文化を知る機会となったようです。出発の際には緊張していた学生も、日本へ帰国する際にはリラックスして、達成感や自信を感じられる笑顔を見せていました。



留学生だより

今年度、石川高専学生寮には、カンボジアから2名、タイから3名、マレーシアから2名、モンゴルから1名、ブラジルから1名の合計9名(男子7名・女子2名)の留学生が在寮しています。このうち、新たに編入学したヴィンさん、テルキさん、タスニムさんには、アンケートに回答してもらいましたので紹介します。



アンケート項目

- ① 出身国と都市名を教えてください。
- ② 日本に留学したいと思った理由を教えてください。
- ③ 日本の印象を教えてください。
- ④好きなことや趣味、特技を教えてください。
- ⑤ 石川高専に留学してみた感想を教えてください。
- ⑥ 留学しようと考えている石川高専の学生へ、アドバイスをお願いします。

3年 機械工学科

DA SILVA ALVES VINICIUS HENRIQUE (ヴィン)

- ① ブラジルのサンパウロ出身です。
- ② 昔から日本の文化や技術に興味があり、特にものづくりについて学びたいと思ったからです。また、日本で新しい経験をして、自分自身を成長させたいと思いました。
- ③ 日本はとても安全で、町がきれいだと思います。また、時間を守る人が多く、みんな親切な印象があります。四季がはっきりしているところも好きです。
- ④ 趣味はスポーツや音楽を聴くことです。また、友達と出かけることも好きです。
- ⑤ 石川高専では、専門的な知識だけでなく、日本語や日本文化についてもたくさん学ぶことができています。先生や友達も優しく、毎日楽しく過ごしています。



- ⑥ 最初は不安もあると思いますが、積極的に挑戦することが大切だと思います。たくさんの人と交流すると、日本での生活がもっと楽しくなります。失敗を恐れずに頑張ってください。



レンソイス・マラニェンセス国立公園の白い砂丘(世界遺産)

3年 電子情報工学科

TERUKI NATTANON SATO (テルキ)

- ① タイ・バンコク
- ② タイ高専では日本人の高専生との交流会がたくさんあって、日本人の友達もできたことをきっかけに、日本に留学したいと思うようになりました。
- ③ 私にとって、日本の印象は礼儀正しさと、美しい桜です。石川高専に来たときにも、桜が咲いてくれて、とても綺麗でした。
- ④ 趣味は音楽を聴くこととサッカーを見ることです。今年もワールドカップがあって、よかったら、一緒に応援しましょう!
- ⑤ 石川高専に留学してから、色々な部活やアクティビティに参加できて、とても楽しんでいます。もしおすすめのアクティビティがあれば、ぜひ誘ってください。
- ⑥ 留学しようと思っている学生は、きっといろいろな悩みがあると思います。例えば、言葉のことや、留学先の国の文化に慣れられるかどうかなどです。でも、もし留学したいと思っているのなら、一生懸命その国の言葉を勉強して、ぜひ留学に挑戦してみてください。きっと、たくさんの新しい経験ができると思います。



ワット・アルン (寺院)



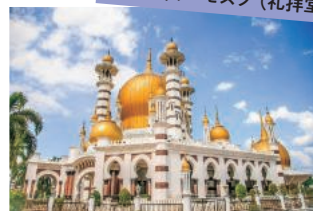
3年 電気工学科

ARWA TASNIM BINTI MAHYUDDIN (タスニム)

- ① マレーシア・ジョホール
- ② 日本の技術は先進的で、特に災害に強い建築や技術に魅力を感じました。また、電気工学の分野でも世界的に進んでいるため、日本で学びたいと思いました。
- ③ 日本は技術が発達しているだけでなく、文化や美術、ファッションも豊かだと思います。また、人々がお互いに尊敬合っている点も印象的です。
- ④ 絵を描くことが好きで、特に花の絵をよく描きます。また、ノート作りや日記、ジャーナリングも好きです。時々、ケーキやお菓子を作ります。
- ⑤ 日本に来たばかりの頃は新しいことが多くて少し戸惑いましたが、高専のスタッフはとても親切で、いつも助けてくれます。ムスリム学生として理解していただけることにも感謝しています。
- ⑥ 恐れずに、自分のペースで生活することが大切です。困ったときは周りの人に頼ってください。また、時々立ち止まって、自分のやりたいことや目的を見つめ直すことも大事だと思います。



ウブディア・モスク (礼拝堂)



自分にしかできないこと・自分らしさを追求めて

建築学科 教授 道地 慶子



私は大学時代に建築と出会い、その後の歩みは常に建築への興味関心と共にありました。恩師から「建築は総合芸術である」という教えに出会い、その魅力に導かれるように実務、研究、教育へと道を重ねてきました。その後イギリスに留学して学んだアーバンデザインにおいては、建物単体ではなく、街や景観、人の営みまでを含めて考える建築の奥深さに惹かれ続け、その思いは決して色あせることはありませんでした。若い時は自分の興味に一心不乱に向かって行っていました。実社会に出てからは求められる中で自分に何ができるかを精いっぱい考え取り組んできたように思います。石川高専では、学生とともに地域に入り、デザインの力で街を元気にする取り組みを実践してきました。建築が人と人をつなぎ、場所に誇りと賑わいを生む瞬間に立ち会えたことは、建築を愛する者として何よりの喜びで、建築の先生である私に誇りを持たせてくれた学生たちや関わってくださった皆さんには感謝しかありません。

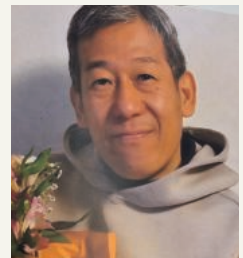
わたしのこれまでの歩みを振り返ると、とても運のいい、チャンスに恵まれ非常にタイミングに恵まれたものだったと思います。本年度をもって石川高専は退職いたしますが、建築への情熱はこれからも変わることはありません。ここで出会えた学生たち、教職員のみなさま方、そしてご支援いただいた地域のみなさまに心より感謝申し上げます。



R8.3.7 本校ラーニングコモンズで開催した「道地 Lab. メモリアルセッション」に参加してくれたこれまで17年間の研修室所属 OB・OG

紆余曲折も塞翁が馬に帰する

一般教育科 教授 南 雅樹



令和4年4月に21年間務めた山陰の米子高専から縁あって郷里・石川県にある石川高専へ配置換えとなり、この3月に定年退職を迎えることとなりました。

退職を迎えてこれまでの人生を振り返るとなかなか紆余曲折を経てきたなと感じます。金沢大学大学院を修了し、僅か1年間でしたが市スポーツ事業団で幼児から高齢者までの運動指導という貴重な経験を得た後は金沢美術工芸大学の教員として10年間、さらに北陸から約500km離れた山陰・鳥取県米子市にある国立米子高専で21年間、最後の4年間は高専機構の同居支援制度により郷里の石川高専に奉職させてもらいました。

30代後半まで過ごした石川県を離れ、家族4人で移動した米子での生活は当初不安も多かったですが、「郷に入っては郷に従え」と同時に「なるようになれ：自分流に徹底する」も相まって校務や陸上競技部顧問、更には県や市の様々な委員を拝命し米子での21年間我武者羅に全力で走り抜け、達成感・喜びを感じることも多い充実した年月だったと感じております。部員には日頃から『継続は力なり&文武両道』を念仏のように唱えて叱咤激励したことが功を奏したのか、中国地区高専大会での男子総合3連覇と女子総合7連覇、更には全国高専大会の男子総合第3位という活躍を収めてくれたこと。また、陸上競技部の学生の中には、サイエンス・インカレの準グランプリ、GCON（テーマ：短距離AIコーチング）やデザコン（創造デザイン部門）の文部科学大臣賞などの栄に浴した者、博士号取得者が何名も出て、我が国の有数の研究機関や企業の第一線で活躍してくれている者も多くいます。本当に良い学生に恵まれたのだと改めて感じます。

あと5年で定年退職となった時点で、両親の大病が分かり再度人生の大きな転機を迎え、石川高専へ配置換えとなりました。正直言って日本海側で大都市圏でない国立高専でしたが、米子との学生の気質の違い等に戸惑いながらも教職員の皆様、特に体育科の先生方からの手厚いサポートを受けて無事動機上げることができました。感謝の言葉しかありません。漠然とした不安感により環境の変化をマイナスの側面から捉える人も少なくないですが、自分もそうでした。しかし、令和6年元旦の能登半島地震はその考えを改めるに至りました。当日は家族で実父の米寿を祝うために温泉へ両親を連れ出していたことが、結果的に両親の命を救うことになったからです（実家は被災を受けて半壊）。もし米子高専で定年を迎えていたら、もう少し「紆余曲折」がない教員人生だったかもしれませんが、両親を失うという大きな代償を払っていた可能性は非常に高かったはず。『紆余曲折』の人生でしたが、「人間万事塞翁が馬」の如く、結果的に良い人生・良い教員生活だったと感じています。

最後に、石川高専の学生の皆さんには、日々葛藤することも多いかもしれませんが、些細な事に一喜一憂せず、自分を信じて掲げた目標に向かって走り続けて下さい。The sky is the limit. の言葉を送ります。



退官記念誌より



胴上げ

コピーされた青春と経験を超えて

廣田 篤 (ひろた あつし)

この春、石川高専に一般教育科新任教員として着任した廣田と申します。専門は認知言語学(英語)です。実は、昨年度、非常勤講師として英語表現Ⅲの授業を担当しました。したがって、高専生は全く未知というわけではなかったのですが、これまで授業以外で学生と関わることがなかったので、球技大会のソフトボールで、教員チームの一員として学生チームと対戦したことが印象に残りました。私自身の高校時代の青春を回想し、懐かしい気持ちにもなりました。教員ならではの特典ですね。

担当科目は英語なので、近年のAIの飛躍的な進歩によって、英語学習のあり方がどう変わるのか、授業の形態は変わるのか、学生の英語学習のモチベーションにどのような影響をもたらすのか、といった問題が常に頭をよぎっています。そうした変化の可能性を念頭に置きつつ、結局自分の経験を軸に授業を組み立てようとするわけですが、なかなか思うような授業はできません。経験が通用しないという場合、もちろん新たに勉強しなければなりません。その狭間でまがいているのが現状です。なかなか難しい時代になりましたね。学生の皆さんも大変だと思いますが、共に成長できたらと考えています。

Profile

所属：一般教育科
職名：准教授
専門分野：認知言語学
学位：博士(文学) 趣味：読書、音楽。
インドア派なので、趣味は読書・音楽などです。あとは気が向いたときに、日本語の歌詞などを英語に訳すことです。



学びがあれば人生は楽しい

小田 洋平 (こた ようへい)

4月より、一般教育科(情報・物理)に着任した小田洋平と申します。姓は「こた」と読みます。金沢出身で高校まで過ごし、仙台で大学・大学院時代を送りました。その後、福島高専に11年半勤めていましたが、22年ぶりに地元の石川へ戻ってくるようになりました。2011年3月には大学の研究室で東日本大震災に遭い、そして2024年元旦は帰省中に能登半島地震に遭いましたが、何とか無事だったのは運が良かったからだと思っています。地域にとって若い人の持つ可能性は大切な希望であり、今後は地元の教育に少しでも役に立てればと思います。

元々の専門教科は物理でしたが、石川高専では1年生の情報リテラシーと4、5年生の確率・統計の授業を主に担当しています。今まで担当した経験のない科目を受け持つ機会をいただき、高専の教員になった頃の初心を思い出すとともに、標題の「学びがあれば人生は楽しい」という言葉を改めて実感しています(この言葉は、福島高専でバドミントン部の顧問と共に務めていた先生が贈ってくださったものです)。授業に関することでも、それ以外のことで、何か分からないことがあれば遠慮なく質問にきてください。よろしくお願ひいたします。

Profile

所属：一般教育科
職名：准教授
学位：博士(工学)
専門分野：物理シミュレーション、磁気物性
趣味：釣り、乗り鉄、コーヒー、バドミントン(今は見る専)。妻と息子にも北陸・石川を好きになってもらえるように、あちこち巡りたいです。



創造のリアルを伝えたい

漆崎 義和 (うるしさき よしかず)

石川高専の皆さま、はじめまして。本年度4月より建築学科の教授に着任しました、漆崎義和です。専門は建築の設計です。特に地域や環境に根差した建築や都市空間の創造を目指して設計に取り組んでいます。私は設計事務所で設計・監理も従事しており、日常の創造の現場に身を置いております。ですから、机上の物事だけではなく、今まで現場で蓄積した知識や体験とその現状を実例を用いてリアルを伝えることが使命だと思っています。建築の設計とは何もない場所や空間また曖昧な概念から、公共性を伴った機能や美しさを備えた具体性を生み出す、まさに無から有を創る尊いプロセスだと考えます。その過程は苦しくもありますが、達成すれば非常に歓び溢れる行為です。その歓びを伝えることもまた私の使命だと思っています。感性豊かな学生諸君と一緒に建築の意義や可能性を探索し、その思いを共感したいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

Profile

所属：建築学科
職名：教授
専門分野：建築設計
学位：修士(工学)
趣味：旅行、ゴルフ、ガーデニング、食事



変化、挑戦、失敗を恐れず楽しむ

金子 義幸 (かねこ よしゆき)

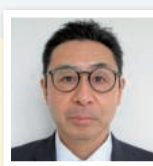
令和8年2月より機械工学科に着任いたしました金子義幸です。令和8年1月までは石川県内の工作機械メーカに約30年勤務をしていました。前職では主に工作機械の高精度化に関わる研究開発や製品に発生する問題解決、知的財産管理など多岐にわたる業務に携わりました。途中、愛知県にある自動車メーカに出向して自動車部品の生産技術開発に取り組むなど多くの変化、挑戦、失敗の経験をしてきました。

令和4年度から日本技術士会石川県支部の活動で本校専攻科の技術者倫理の非常勤講師もしていました。この度ご縁があってこちらに着任することとなりましたが、会社と学校とのいろいろな違いに戸惑う毎日です。学校の教職員や学生の皆様はとても親切なので、日々教えをもらいながら、少しずつ慣れていきたいと思っています。

これからは自分が経験から学んだ多くのことを学生の皆様に伝承していくこと、日本のものづくりの重要な部分である「加工技術」に興味をもつ人を一人でも多く増やすことをライフワークに頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

Profile

所属：機械工学科 教授
専門分野：工作機械、精密加工、トライボロジー
学位：博士(工学)、
技術士(機械部門・総合技術監理部門)
趣味：ファン歴40年の矢沢永吉のライブ参観、鉄道(乗り鉄)、読書(ビジネス本、歴史など何でも読みますが、一番は池井戸潤作品)



●人事異動

■令和8年2月1日付け

採用 金子 義幸 機械工学科准教授

■令和8年3月31日付け

定年退職 南 雅樹 一般教育科教授

■令和8年4月1日付け

採用 漆崎 義和 建築学科教授

廣田 篤 一般教育科准教授

配置換(転入)

小田 洋平 一般教育科准教授

配置換(昇任・転出)

道地 慶之 建築学科教授

昇任 永井 隆之 一般教育科教授

金子 義幸 機械工学科教授

仲林 裕司 電気工学科准教授

三吉 建尊 電子情報工学科准教授

小川 福嗣 建築学科准教授

再雇用 南 雅樹 一般教育科嘱託教授



2026年度行事予定

4月

1-3 春季休業
6 入学式
7 前期授業開始、新入生オリエンテーション
15 定期健康診断
24 開校記念日

5月

1-5 閉寮
8-9 1年生合宿研修
14 本科春季球技大会
16 寮生保護者懇談会
20 専攻科入学者選抜検査(推薦)
21-27 授業参観ウィーク

6月

4-7 高校総体
10-16 前期中間試験
21 専攻科入学者選抜検査(学力、社会人)
22 北陸地区高専体育大会壮行会
22 文化部発表会

7月

4-5 北陸地区高専体育大会
26 こども石川高専
30-8/5 前期末試験

8月

7-9/22 閉寮
8-9 1～4年生保護者懇談会
10-9/18 夏季休業、4年生学外実習
21-9/6 全国高専体育大会
21-22 体験入学

9月

24 コンテスト激励会
29-10/2 4年生海外研修 ※1
29-10/2 3年生合宿研修 ※2
30 前期授業終了

10月

1 2年生学外見学会
5 後期授業開始
5 高専体育大会報告会
5-12/2 専攻科1年生長期インターンシップ
10-11 全国高専プログラミングコンテスト本選
18 全国高専ロボットコンテスト
(東海・北陸地区大会)
21 本科秋季球技大会
31-11/1 紀友祭、オープンカレッジ

11月

7-8 全国高専デザインコンペティション本選
15 全国高専ロボットコンテスト(全国大会)
20 企業技術説明会

12月

1-7 後期中間試験
23-1/4 閉寮
24-1/5 冬季休業

1月

16 本科入学者選抜検査(推薦)
23-24 全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
本選

2月

2-5 5年生学年末試験
10-17 1～4年生学年末試験
14 本科入学者選抜検査(学力)
26 後期授業終了
26-4/初旬頃 閉寮

3月

1-18 臨時休業
中旬 入学準備会
19 卒業証書・修了証書授与式
23-31 学年末休業
24 教科書販売

※1 学科により日程が前後します
※2 うち2日間で実施します

夏 休 み

こ ども 石 川 高 専

参加
無料

■ 日程: 2026年7月26日(日) ※時間は学習テーマによって異なります。

■ 会場: 石川工業高等専門学校(河北郡津幡町北中条タ1)

■ 募集対象: 小学校4年生～中学校3年生と保護者 383組

※小学生は保護者同伴必須です。

※中学生は保護者同伴が無くても参加可能です。

■ 参加費: 無料

※今年度の受付は終了しました



URL <https://www.ishikawa-nct.ac.jp/other/event/kodomo.html>

■ 問合せ先 石川工業高等専門学校 総務課 企画・地域連携係

TEL 076-288-8017 FAX 076-288-8014 E-mail kikaku@ishikawa-nct.ac.jp

NEWS & TOPICS

01 台湾嘉義大学×本校 STEAM教育活動オンラインフォーラムを開催

2025年12月19日（金）、台湾国立嘉義大学理工学部電子物理学科の蘇炯武教授と、本校電子情報工学科の山田健二教授によるSTEAM教育活動をテーマとしたオンラインフォーラムを開催しました。

嘉義大学との交流は、2019年7月に学術協定を締結して以来、今年で7年目を迎えます。オンラインでの交流は、今回が4回目となりました。

2025年7月には、蘇教授に来校いただき、電子情報工学科および環境都市工学科の4年生を対象に、グリーンエネルギーをテーマとした英語による特別授業を実施していただきました。また、2024年度4年次の海外研修では、電子情報工学科のクラス全員が嘉義大学を訪問し、蘇教授によるSTEAM×AIに関する講義を受講するなど、対面での交流も行われています。

今回のオンラインフォーラムでは、電子機械工学専攻2年生2名（宇野さん、夏嶋さん）、電子情報工学科5年生4名（澤田さん、島崎さん、浄琳坊さん、長谷川さん）が発表を行いました。嘉義大学からは、蘇教授が担当するSTEAMコースの6グループ・27名の学生が参加し、嘉義市内の小学校で実施されているSTEAM教育活動の報告や今後のビジョンについて発表がありました。

フォーラム終了後、本校学生からは「嘉義大学の学生の英語力の高さに驚いた」「リスニングが十分に理解できず悔しかった」「今後の英語学習への意欲が高まった」「次回はより分かりやすいスライドを作りたい」といった前向きな感想が寄せられました。

今回のフォーラムも国際交流を深める大変有意義な機会となりました。



嘉義大学側から撮影した集合写真

02 全国高等専門学校体育大会 サッカー競技で初優勝！ サッカー部が津幡町長を表敬訪問

2025年12月20日（土）から24日（水）にかけて、宮崎県都城市で開催された「第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技」において、本校サッカー部が見事初優勝を果たしました。

このたび、その栄誉を報告するため、1月26日（月）、サッカー部主将をはじめとする部員3名と北田副校長（学生担当）ほか関係者が矢田町長を表敬訪問しました。

懇談では、学生から大会結果の報告に加え、能登半島地震の影響により自校のグラウンドが使用できない中、練習施設を提供していただいたことへの感謝の言葉が述べられ、終始和やかな雰囲気で見聞交換が行われました。



03 「令和7年度卓越した学生に対する授業料免除」の認定証授与式を実施

2025年12月9日（火）、「令和7年度卓越した学生に対する授業料免除」の認定証授与式を行いました。

この授業料免除は、独立行政法人国立高等専門学校機構が制定した制度で、本校では、専攻科生のうち、学業成績が極めて優秀な学生を対象として実施しています。

今年度は、電子機械工学専攻1年・新谷さん、電子機械工学専攻2年・大谷内さん、環境建設工学専攻1年・廣瀬さん、環境建設工学専攻2年・中川さんの4名が選出され、富田校長から認定証が授与されました。



04 国立高等専門学校教員顕彰および石川工業高等専門学校教員顕彰 顕彰式を挙

2026年5月20日（水）、本校大講義室において、令和7年度国立高等専門学校教員顕彰および石川工業高等専門学校教員顕彰の顕彰式を挙りました。

これらの顕彰は、管理運営や地域社会への貢献を含め、学生教育を中心とする分野において顕著な功績を挙げた教員を顕彰するとともに、顕彰を通じて国立高等専門学校における教育の充実及び向上を図るものです。

「国立高等専門学校教員顕彰」については、「優秀賞」を電子情報工学科の越野亮教授が受賞しました。越野教授は、AI・データサイエンス教育を中心に、実践的な教育・研究・地域連携を長年にわたり推進し、顕著な成果を挙げてきました。また、PBL（課題解決型学習）やアクティブラーニングを積極的に取り入れた実践的教育を展開するとともに、全国高専プログラミングコンテスト、高専起業家サミット、WRO Japan大会において学生が優れた成果を挙げるなど、本校教育の発展に大きく貢献しました。さらに、「こども石川高専」やWRO石川大会の運営など、地域連携活動も牽引し、教育・研究・社会貢献の各分野において卓越した業績を残しています。

「石川工業高等専門学校教員顕彰」については、「特別業績賞」を電子情報工学科の松本剛史准教授および電気工学科の金尾奨助教が受賞しました。両教員は、本校サッカー部顧問として長年にわたり熱心な指導と支援を続け、日々の練習における監督・指導に加え、多数の試合における引率を精力的に行い、学生の競技力向上及び人格形成に大きく貢献しました。また、その成果として、令和7年度全国高等専門学校体育大会サッカー競技において、本校初となる優勝を達成しました。

顕彰式では、富田校長から受賞者へ表彰状が授与され、受賞者の功績を称えとともに、今後のさらなる活躍への期待が述べられました。



越野教授（左）、富田校長（右）

金尾助教（左）、富田校長（中央）、松本准教授（右）



〔校章の由来〕

「石川高専」であることを明確に打ち出したものの、というアピール性に眼目をおいて「高専」の文字を「石」と「川」で両側から円形に囲み、創造と協調の精神が生きたわかりやすいものにした。

(当時 金沢美大教授であった 故 板坂辰治先生のデザイン)

石川高専のたからもの Vol.32

構造物静的載荷試験装置

環境都市工学科 前田 健児

環境都市工学科では、建物や橋梁などの強度を支える鋼材の性能を調べるための「構造物静的載荷試験装置」を導入しています。この装置は、手動ポンプで油圧を制御し、パワージャッキを用いて最大200kN (約20t相当) という非常に大きな力を試験体に加えることができる設備です。

装置には精度の高いロードセルやひずみ測定器が接続されており、材料がどの程度の力で変形するか、限界点はどこかといったデータを精密に計測できます。専門的な実験を通じて学生たちは理論を実践へと結びつけ、安全な社会基盤を支えるための構造解析技術を深く学んでいます。未来の技術者育成を支える、学内でも重要な研究設備の一つです。



編集 後記

編集後記を執筆するにあたり、この時期に発行された過去4年間の『高専だより』に目を通しました。令和4年度には、社会を混乱に陥れたコロナ禍が「with コロナ」へと移行し、全校集会で学生が一堂に会する様子が見られたこと、令和6年度には、能登半島地震による被災について記事として掲載されていました。このように、わずか4年の間にも本校の学習環境は大きく変化してきました。しかし、そのような中でも日々逞しく成長している学生の姿を目にすると、大変誇らしく感じます。現在、総合体育館の建設工事やテニスコートの修復が進められています。来年度のこの時期には、復興した体育施設の紹介記事をお届けできることを楽しみにしながら、校内の景色を眺めています。

